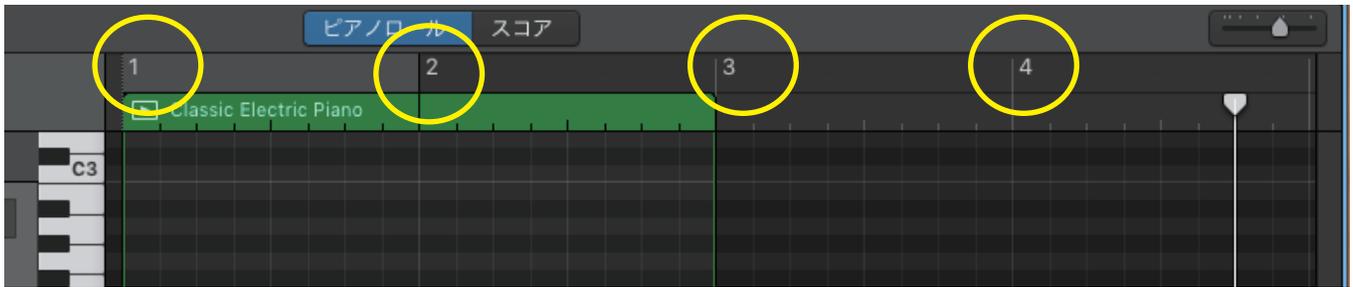


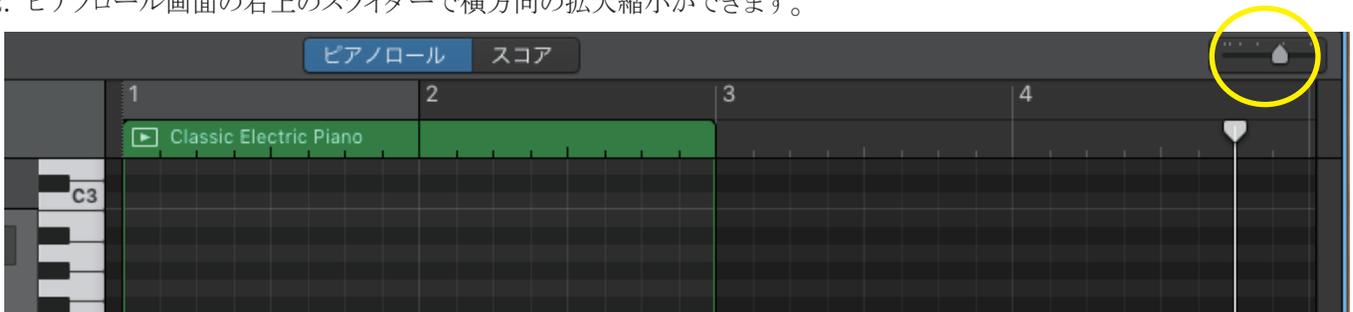
■ 〈楽譜〉と〈ピアノロール画面〉との関係について

～ 楽譜中のその音符は、ピアノロール画面の〈どのます目〉へ、〈どのくらいの長さ〉で打ち込めば良いのか？

1. ピアノロール画面上部にみられる数字は「小節番号」をしめします。むろん楽譜の「小節番号」と対応しています。



2. ピアノロール画面の右上のスライダーで横方向の拡大縮小ができます。



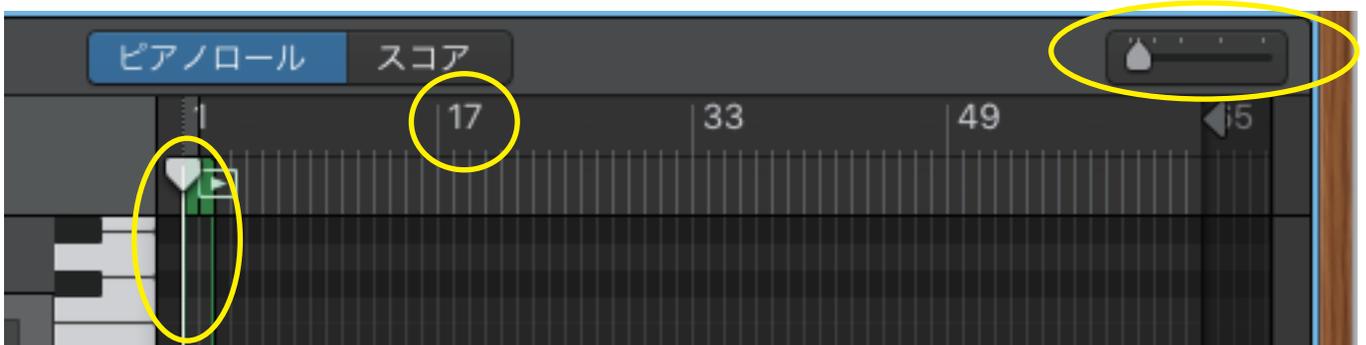
3. この後は、ピアノロール画面内に見られる〈ます目〉と〈音符の長さ〉の関係について解説します。

そのための準備として、画面上部の「トランスポートコントロール」で、拍子を「2/4 拍子」に設定してください (p.3, 図 2 参照)。そして、ルーラー（再生位置を示すピアノロール画面内にある白い縦線）は第 1 小節目の頭（左端）に戻してください。



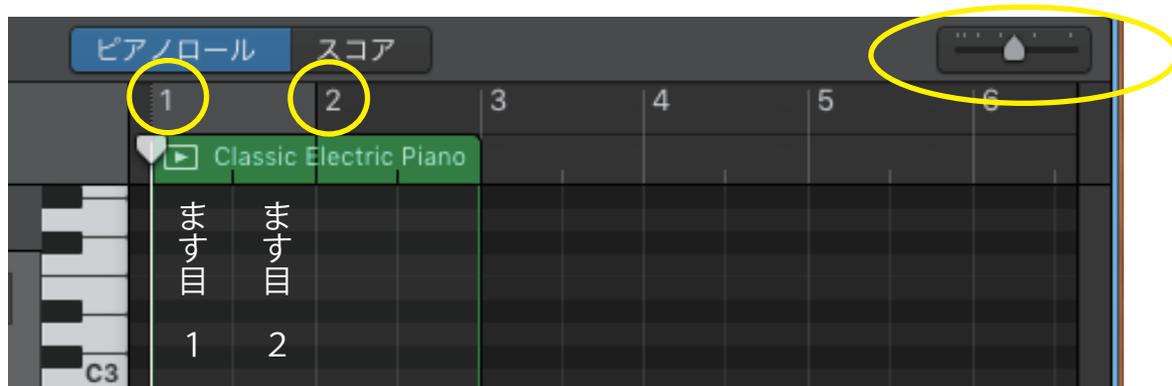
← 「2/4 拍子」を設定する時は、拍子部分をクリックしてまず「カスタム」を選び、さらに右図のように設定すると設定できる。

準備ができたなら、まず最初に、スライダーを左いっぱいセットして、ピアノロール画面の横軸を最も縮小させてみます。すると、最大限に縮小されて、「1 小節目」の次が「17 小節目」となるほどに大雑把に表示されます。

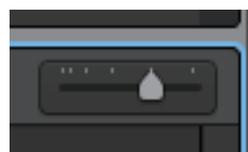


ルーラーは 1 小節目の頭へ

4. 少しずつスライダーを右へ移動させて画面の横軸拡大させます。スライダーの位置が真ん中を少し過ぎた位置になると、小節番号が 1,2,3,4 のように見えてきます。その時、小節の中は「2つのます目」で区切られている形で表示されます。(4分の2拍子)の時に「ピアノロール画面」内の〈ます目〉が1小節内を2等分していることから、この〈ます目〉一個分の長さは〈四分音符の長さ〉に相当します。しかし、この状態では打ち込み作業は困難です。横軸において、MIDIメッセージを的確な位置に打ち込むには、大雑把すぎるからです。



5. さらにもう少しだけスライダーを右にずらして、八分目ほどの位置にしてみます。



すると、ピアノロール画面内の横軸が拡大され、小節内部が「8つのます目」に区切られて表示されてきます。



そもそも〈4分の2拍子〉ならば、各小節内はかならず四分音符2個分の長さをもっていることになります。ここで小節内部の「8個のます目」を二つにわけて「4個と4個」と考えてみます。本授業資料7頁で説明したとおり、四分音符の長さとは「十六分音符4個分の長さ」でした。したがって、このピアノロール画面の〈ます目〉4個分が、四分音符1個分に相当することになります。このことからまた、このピアノロール画面での〈ます目〉一個分の長さは、十六分音符1個分の長さであることがわかります。

もしスライダーをさらに右へずらして、さらに横軸を拡大させても、〈ます目〉がこれ以上細かく分割されることはありません。つまり一般的な設定で使用するならば、GarageBandのピアノロール画面の横軸をある程度拡大させた時、そこに現れる〈ます目〉一個分の長さは、十六分音符1個分の長さとなります。

これで楽譜に記された各音符の長さや、横軸の問題を、GarageBandのピアノロール画面で表す手がかりがつかめたと思います。例えば、楽譜の第1小節目の頭に付点四分音符があれば、ピアノロール画面では第1小節目の左端の〈ます目〉から6個分の長さとして入力すれば良く、楽譜による次の音が八分音符であれば、横軸としては、そのすぐ右横の〈ます目〉の位置に打ち込んで、そこから〈ます目〉2個分の長さにする、という要領です。